

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツダ'イ'ケルジ'ンヤマケンリツダ'イ'ク 公立大学法人山梨県立大学								
フリガナ大学の名称	ヤマケンリツダ'イ'ク'イ'ケ'ク'イン 山梨県立大学大学院								
大学本部の位置	山梨県甲府市飯田5丁目11-1								
大学の目的	「グローバルな知の拠点となる大学」、「未来の実践的な担い手を育てる大学」、「地域に開かれ地域と向き合う大学」たることを希求し、人間と社会に対する学術的研究、豊かな人間性及び専門的な職業能力を備えた人材の育成並びに地域社会に対する実践的な貢献を通じて、豊かで活力ある社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	子ども家庭福祉を柱に、子ども理解領域からソーシャルワーク領域まで幅広く高度な理論及び応用を教授研究することを通し、人間福祉学の研究的視点をもつ専門性の高い実践者を養成し、現代社会が抱える諸問題の解決に貢献する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 人間福祉学部福祉コミュニティ学科 人間福祉学部人間形成学科 14条特例の実施
	人間福祉学研究科 人間福祉学専攻	年	人	年次人	人	修士（人間福祉学）	年月 第1年次 令和6年4月 第1年次	山梨県甲府市飯田5丁目11-1	
計		2	5	-	10				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称					卒業要件単位数			
	人間福祉学研究科人間福祉学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		20科目	9科目	3科目	32科目				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
	教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	人間福祉学研究科 人間福祉学専攻（修士課程）	9人 (9)	8人 (8)	3人 (3)	-人 (-)	20人 (20)	-人 (-)	-人 (-)
	計		9 (9)	8 (8)	3 (3)	- (-)	20 (20)	- (-)	- (-)
	既設	看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）	7 (10)	7 (9)	3 (3)	2 (2)	19 (24)	- (-)	16 (16)
	既設	看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）	9 (12)	3 (4)	- (-)	- (-)	12 (16)	- (-)	5 (5)
計		11 (14)	7 (9)	3 (3)	2 (2)	23 (28)	- (-)	- (-)	
合計		20 (23)	15 (17)	6 (6)	2 (2)	43 (48)	- (-)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	20人 (20)	21人 (21)		41人 (41)				
	技術職員	1 (1)	1 (1)		2 (2)				
	図書館専門職員	2 (2)	5 (5)		7 (7)				
	その他の職員	- (-)	- (-)		- (-)				
計		23 (23)	27 (27)		50 (50)		大学全体		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	35,113㎡	- ㎡	- ㎡	35,113㎡					
	運 動 場 用 地	17,875㎡	- ㎡	- ㎡	17,875㎡					
	小 計	52,988㎡	- ㎡	- ㎡	52,988㎡					
	そ の 他	- ㎡	- ㎡	- ㎡	- ㎡					
合 計	52,988㎡	- ㎡	- ㎡	52,988㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		31,722㎡ (31,722㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	31,722㎡ (31,722㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	34室	15室	33室	2室 (補助職員 -人)	1室 (補助職員 -人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		人間福祉学研究科 人間福祉学専攻		20 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数		
	人間福祉学研究科	232,501 [17,232] (230,575 [17,192])	2,270 [265] (2,270 [265])	5,665 [5,665] (5,665 [5,665])	6,588 (6,504)	3,950 (3,917)	150 (148)			
	計	232,501 [17,232] (230,575 [17,192])	2,270 [265] (2,270 [265])	5,665 [5,665] (5,665 [5,665])	6,588 (6,504)	3,950 (3,917)	150 (148)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数	大学全体					
		2,290 ㎡	278	300,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		2,446㎡	テニスコート2面							
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため学部との合計
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		200千円	200千円	-	-	-	-	
		図 書 購 入 費	12,019千円	12,019千円	12,019千円	-	-	-	-	
		設 備 購 入 費	200千円	200千円	200千円	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	第1年次の①は県内者、②は県外者		
	① 817千円 ②1,005千円	535千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			特定運営費交付金、財産貸付料収入、雑収入 等							
大 学 の 名 称		山梨県立大学								
既設大学等の 状況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	国際政策学部	-	80	10	340	-	1.08	-	山梨県甲府市飯田5丁目 11-1	
	総合政策学科	4	40	3年次 5	170	学士(国際政策学)	1.04	H17年度		
	国際コミュニケーション学科	4	40	3年次 5	170	学士(国際政策学)	1.13	H17年度		
	人間福祉学部	-	80	10	340	-	1.00	-		
	福祉コミュニティ学科	4	50	3年次 5	210	学士(人間福祉学)	1.00	H17年度		
	人間形成学科	4	30	3年次 5	130	学士(人間福祉学)	1.02	H17年度		
	看護学部	-	100	-	400	-	0.99	-	山梨県甲府市池田1丁目 6-1	
	看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	0.99	H17年度		
看護学研究科	-	13	-	29	-	1.11	-			
看護学専攻(博士前期課程)	2	10	-	20	修士(看護学)	1.00	H17年度			
看護学専攻(博士後期課程)	3	3	-	9	博士(看護学)	1.50	R3年度			
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要														
(人間福祉学研究所人間福祉学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	人間福祉学特講	1前	2			○			2	2	1			オムニバス
	人間福祉学研究方法	1前	2			○				2	1			オムニバス
	スーパービジョン特講	1前	2			○			2					オムニバス 共同（一部）
	小計（3科目）	—	6	0	0			—	3	4	1	0	0	
基礎科目	子ども虐待臨床特講	1前	2			○			1					
	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴	1前	2			○			1					
	アタッチメント理論の臨床応用	1前	2			○			1					
	ソーシャルペダゴジー	1後		2		○			1					
	子ども虐待とアドボカシー	2前		2		○			1					
	小児精神医学特講	2前		2		○			1					
	小計（6科目）	—	6	6	0			—	3	0	0	0	0	
関連科目	臨床発達心理学特講	1後		2		○				1				オムニバス
	子どものウェルビーイング特講	1後		2		○			1	1				オムニバス
	発達障害支援特講	1後		2		○				1				
	多文化共生教育・保育特講	2前		2		○			1					
	子どもの表現特講	2前		2		○			1	1	1			オムニバス
	ソーシャルワークの価値と理論	1後		2		○			1					
	ソーシャルワークの実践と分析	2前		2		○				1				
	ファミリーソーシャルワーク特講	2前		2		○			1					
	地域福祉論特講	1後		2		○				1				
	地域福祉マネジメント実践方法論特講	1後		2		○			2	1				オムニバス 共同（一部）
	福祉行財政学特講	2前		2		○				1				
小計（11科目）	—	0	22	0			—	6	8	1	0	0	—	
実習・演習科目	子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）	1前		2				○	1		1			共同
	子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅）	1後		2				○	1		1			共同
	子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）	2前		2				○	1		1			共同
	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設）	1前		1			○		3					
	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅）	1後		1			○		3					
	子ども家庭福祉実践演習Ⅲ（児童相談所）	2前		1			○		3					
	人間福祉実践演習Ⅰ	1後		2			○		6	7	1			共同
	人間福祉実践演習Ⅱ	2前		2			○		6	7	1			共同
小計（8科目）	—	0	13	0			—	9	7	2	0	0	—	
研究科目	人間福祉学特別研究Ⅰ	1後		2				○	9	7	1			
	人間福祉学特別研究Ⅱ	2前		2				○	9	7	1			
	人間福祉学特別研究Ⅲ	2後		2				○	9	7	1			
	人間福祉学課題研究	2後		2				○	9	7	1			
	小計（4科目）	—	0	8	0			—	9	7	1	0	0	—
合計（32科目）		—	12	49	0			—	9	8	3	0	0	—
学位又は称号		修士（人間福祉学）			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
①以下の通り30単位以上を修得すること。 【修士の学位論文選択者】 必修科目12単位に加え、研究科目内「人間福祉学特別研究Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」計6単位必修、基礎科目、関連科目、実習・演習科目の選択科目から12単位以上修得すること。（但し実習・演習科目から3単位以上修得すること） 【特定の課題についての研究選択者】 必修科目12単位に加え、研究科目内「人間福祉学課題研究」2単位必修、基礎科目、関連科目、実習・演習科目の選択科目から16単位以上修得すること。（但し実習・演習科目から5単位以上修得すること） ②必要な研究指導を計画的に受け、かつ、修士の学位論文、又は、特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格すること。								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教育課程等の概要

(人間福祉学部福祉コミュニティ学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	総合英語Ⅰa	1前		2				○							兼3	共同 共同
	総合英語Ⅰb	1後		2				○							兼3	
	総合英語Ⅱa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	総合英語Ⅱb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	英語コミュニケーション a	1・2・3・4前		2				○							兼2	
	英語コミュニケーション b	1・2・3・4後		2				○							兼3	
	中国語Ⅰa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	中国語Ⅰb	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	中国語Ⅱa	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	中国語Ⅱb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	韓国語Ⅰa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	韓国語Ⅰb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	韓国語Ⅱa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	韓国語Ⅱb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅰa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅰb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅱa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅱb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	フランス語Ⅰa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	フランス語Ⅰb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	フランス語Ⅱa	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	フランス語Ⅱb	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	アカデミック・ジャパニーズ (Writing)	1前		2				○							兼1	
	アカデミック・ジャパニーズ (Reading)	1前		2				○							兼1	
小計 (24科目)		—	0	48	0			—		0	0	0	0	0	兼11	—
情報	情報リテラシー	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	生活と情報	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	小計 (2科目)		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
運動と健康	運動と人間—講義	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	運動と人間—実技Ⅰ	1・2・3・4後		1					○						兼1	
	運動と人間—実技Ⅱ	1・2・3・4後		1					○						兼1	
	運動と人間—実技Ⅲ	1・2・3・4前		1					○						兼1	
	運動と人間—実技Ⅳ	1・2・3・4前		1					○						兼1	
小計 (5科目)		—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—	
キャリア形成	キャリアデザインⅠ	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	キャリアデザインⅡ	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	インターンシップ	2・3前		1					○						兼3	
	小計 (3科目)		—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
人間と文化の理解	人間と思想	1・2・3・4後		2			○					1				
	人間と芸術—美術	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	人間と芸術—音楽	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	人間と芸術—文学	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	人間と文化	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	人間と心	1・2・3・4前		2			○								兼1	
小計 (6科目)		—	0	12	0		—		0	0	1	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会の理解	人間と社会	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		社会と歴史	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		社会と政治	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		社会と経済	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		社会と法	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	兼6	—
	自然の理解	宇宙の科学	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		生物の科学	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		小計 (2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	現代の理解と地域	環境論	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		ジェンダー論	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		グローバル化論	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		日本語の方言と山梨	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		小計 (4科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—
	コミュニケーションと心の理解	プレゼンテーション	1・2・3・4後	2				○							兼4	共同
		グループワークと自己表現	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		カウンセリング基礎	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		発達と教育の心理	1・2・3・4後	2			○								兼1	
小計 (4科目)		—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼7		
導入科目	福祉コミュニティ基礎演習	1	1				○			0	1	1	0	0	共同	
	小計 (1科目)	—	1	0	0		—		0	1	1	0	0	0	—	
学部教養科目	地域ボランティア演習	1前	2				○							兼1		
	コミュニケーション基礎	1前	2			○								兼1		
	生と幸福	1・2前	2			○				1						
	生涯スポーツ	1・2後	2				○							兼1		
	私たちの人生と障がい	1・2後	2			○			1							
	社会調査の基礎	2前	2			○								兼1		
	社会統計学	1・2後	2			○								兼1		
	生・倫理・自立	3・4前	2			○				1						
	子どもの人権	1後	2			○					1					
	経済学入門	1・2前	2			○								兼1		
	統計学基礎	1・2前	2			○								兼1		
	小計 (11科目)	—	0	22	0		—		1	0	2	0	0	兼7	—	
専門基礎科目	人間発達と心理 I	1後	2			○								兼1		
	人間発達と心理 II	2前	2			○								兼1		
	医学一般	1前	2			○								兼1		
	ケア概論	1前	2			○				1						
	高齢者福祉論 I	2前	2			○			1							
	精神保健の課題と支援 I	2前	2			○				1						
	障害者福祉論 I	2前	2			○			1							
	社会学概論	1前	2			○				1						
	福祉と人権	2前	2			○			1							
	ソーシャルワーク援助技術論 I		2			○					1					
	ソーシャルワーク総論 I	1前	2			○			1							
	社会保障論 I	1後	2			○				1						
	社会福祉論 I	1前	2			○			1							
	子ども福祉論 I	1後	2			○			1							
	地域福祉論 I	2前	2			○				1						
小計 (15科目)	—	0	30	0		—		3	2	3	0	0	兼2	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門共通科目 (人間と社会の基礎理解)	社会福祉論Ⅱ	1後		2		○					1					
	公的扶助論	2後		2		○					1					
	社会保障論Ⅱ	2前		2		○				1						
	福祉行財政論	3後		2		○				1						
	高齢者福祉論Ⅱ	2後		2		○				1						
	障害者福祉論Ⅱ	2後		2		○				1						
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		1			○				1	2				共同
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2前		1			○				1	2				共同
	地域福祉論Ⅱ	2後		2		○					1					
	ソーシャルワーク援助技術論Ⅱ	2前		2		○						1				
	ケア技術演習	1・2後		1			○				1					
	スクールソーシャルワーク論	2後		2		○						1				
	小計(12科目)		—	0	21	0	—			2	3	3	0	0	0	
S W	子ども福祉論Ⅱ	2・3前		2		○				1						
	家族関係と家庭福祉	2・3前		2		○				1						
	子ども虐待の臨床	3・4後		2		○				1						
	ソーシャルワーク援助技術論Ⅲ	2後		2		○					1					
	ソーシャルワーク援助技術論Ⅳ	3前		2		○					1					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2後		1			○				1	2				
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前		1			○			2	1					
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4前		1			○			1						
	ソーシャルワーク総論Ⅱ	4前		2		○				1						
	社会福祉施設経営論	3・4前		2		○									兼1	
	医療福祉論	3・4前		2		○									兼1	
司法福祉論	3・4後		2		○									兼1		
小計(12科目)		—	0	21	0	—			4	1	3	0	0	兼3		—
P S W	精神保健の課題と支援Ⅱ	2後		2		○					1					
	精神疾患とその治療Ⅰ	1後		2		○						1				
	精神疾患とその治療Ⅱ	3前		2		○						1				
	精神保健福祉の原理Ⅰ	2前		2		○					1					
	精神保健福祉の原理Ⅱ	2後		2		○				1						
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2後		2		○						1				
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3前		2		○					1					
	精神障害リハビリテーション論	3前		2		○				1						
	精神保健福祉制度論	3後		2		○				1						
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	4前		1			○			1	1	1				共同
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4後		1			○			1	1	1				共同
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	4後		1			○			1	1	1				共同
小計(12科目)		—	0	21	0	—			1	1	1	0	0			—
学科専門科目 分野別科目	こころとからだのしくみⅠ	1後		2		○									兼1	
	こころとからだのしくみⅡ	2前		2		○									兼1	
	介護の基本Ⅰ	1後		2		○					1					
	介護の基本Ⅱ	2前		2		○									兼1	
	介護の基本Ⅲ	2後		2		○									兼4	共同
	介護の基本Ⅳ	3後		2		○									兼1	
	介護の基本Ⅴ	3後		2		○						1				
	生活支援基礎	1前		2		○					1				兼3	オムニバス
	生活支援技術Ⅰ(移動)	1前		1			○				1					
	生活支援技術Ⅱ(排泄)	2前		1			○				1	1				
	生活支援技術Ⅲ(食事)	2前		1			○					1			兼1	共同

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
C W	生活支援技術Ⅳ（身じたく）	1後		1				○				1				
	生活支援技術Ⅴ（清潔・入浴）	2前		1				○			1					
	生活支援技術Ⅵ（睡眠）	2後		1				○			1					
	生活支援技術Ⅶ（家事）	3後		1				○				1			兼2	オムニバス
	生活支援技術Ⅷ（居住環境）	3前		1				○							兼1	
	生活支援技術Ⅸ（終末期）	4後		1				○							兼1	
	認知症の理解Ⅰ	2後		2			○				1					
	認知症の理解Ⅱ	3前		2			○				1					
	介護過程Ⅰ	2後		1				○			1					
	介護過程Ⅱ	3前		1				○			1					
	介護過程Ⅲ	3後		1				○				1				
	介護過程Ⅳ	4前		1				○							兼1	
	介護過程Ⅴ	4後		1				○			1					
	コミュニケーション技術Ⅰ	1前		1				○			1					
	コミュニケーション技術Ⅱ	3後		1				○				1				
	チームマネジメント論	3後		2			○								兼1	
	医療的ケアの基礎Ⅰ	3前		2			○					1				
	医療的ケアの基礎Ⅱ	3後		2			○					1				
	医療的ケア演習	4前		2				○				1				
	小計（30科目）		—	0	44	0			—		1	2	1	0	0	兼12
S W	ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ	2後		1				○				3				共同
	ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ	3通		2				○		2	2	4				共同
	ソーシャルワーク現場実習指導Ⅲ	4通		1				○		2	2	4				共同
	ソーシャルワーク現場実習Ⅰ	3通		2				○		2	2	4				共同
	ソーシャルワーク現場実習Ⅱ	3通		2				○		2	2	4				共同
	ソーシャルワーク現場実習Ⅲ	4通		2				○		2	2	4				共同
	小計（6科目）		—	0	10	0			—		2	2	4	0	0	0
P S W	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後		1				○		1	1	1				共同
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前		1				○		1	1	1				共同
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4後		1				○		1	1	1				共同
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	4通		1				○		1	1	1				共同
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	4通		2				○		1	1	1				共同
	精神保健福祉援助実習Ⅲ	4通		2				○		1	1	1				共同
小計（6科目）		—	0	8	0			—		1	1	1	0	0	0	—
C W	介護総合演習Ⅰ	1通		1				○			1					
	介護総合演習Ⅱ	2通		1				○			1					
	介護総合演習Ⅲ	3通		1				○				1				
	介護総合演習Ⅳ	4通		1				○		1						
	介護実習Ⅰ	1通		1				○		1	2	1			兼3	共同
	介護実習Ⅱ	2通		4				○		1	2	1			兼3	共同
	介護実習Ⅲ	3通		1				○		1	2	1			兼3	共同
	介護実習Ⅳ	4通		4				○		1	2	1			兼3	共同
小計（8科目）		—	0	14	0			—		1	2	1	0	0	兼3	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
関連科目	福祉住環境コーディネート論	1・2後		2		○									兼1	—
	栄養学Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	
	栄養学Ⅱ	2後		1		○									兼1	
	調理実習Ⅰ	2後		1				○							兼1	
	調理実習Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
	住居学	2・3・4後		2		○									兼1	
	行政法Ⅰ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	財政学	2・3・4前		2		○									兼1	
	地域政策論	2・3・4後		2		○									兼1	
	地方政府論	1後		2		○									兼1	
	マクロ経済学	1後		2		○									兼1	
	ミクロ経済学	1前		2		○									兼1	
	民法Ⅰ	1後		2		○									兼1	
	小計(13科目)		—	0	23	0	—			0	0	0	0	0	0	
卒業研究	福祉コミュニティ卒業研究Ⅰ	3通	2						4	5	6				共同	
	福祉コミュニティ卒業研究Ⅱ	4通	4						5	5	6				共同	
	小計(2科目)		—	6	0	0	—		5	5	6	0	0	0	—	
合計(187科目)			—	7	321	0	—		5	5	6	0	0	0	兼68	—
学位又は称号	学士(人間福祉学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>「全学共通科目」から22単位以上と、「福祉コミュニティ学科専門科目」から74単位以上を合計して124単位以上を修得すること。</p> <p>「全学共通科目」については、「基礎科目」のうち「総合英語Ⅰa」「総合英語Ⅰb」「総合英語Ⅱa」「総合英語Ⅱb」から4単位を含む計8単位以上、「教養科目」から8単位以上、計22単位以上を修得すること。</p> <p>「福祉コミュニティ学科専門科目」については、「導入科目」の「福祉コミュニティ基礎演習」1単位と、「卒業研究」の「福祉コミュニティ卒業研究Ⅰ」「福祉コミュニティ卒業研究Ⅱ」の6単位が必修、「学部教養科目」より8単位以上、「専門基礎科目」より20単位以上、「専門共通科目(人間と社会の基礎理解)」より16単位以上、「分野別科目」より18単位以上、「関連科目」より5単位以上、計74単位以上を修得すること。</p> <p>(注) 本学部の教育課程に加え、学部開放科目、連携開設科目、PENTAS YAMANASHI科目等による単位も卒業単位に加えることが出来る。</p>						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要																	
(人間福祉学部人間形成学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	総合英語 I a	1前		2				○							兼3	共同	
	総合英語 I b	1後		2				○							兼3	共同	
	総合英語 II a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	総合英語 II b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	英語コミュニケーション a	1・2・3・4前		2				○							兼2		
	英語コミュニケーション b	1・2・3・4後		2				○							兼3		
	中国語 I a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	中国語 I b	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	中国語 II a	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	中国語 II b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	韓国語 I a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	韓国語 I b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	韓国語 II a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	韓国語 II b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	スペイン語 I a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	スペイン語 I b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	スペイン語 II a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	スペイン語 II b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	フランス語 I a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	フランス語 I b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	フランス語 II a	1・2・3・4前		2				○							兼1		
	フランス語 II b	1・2・3・4後		2				○							兼1		
	アカデミック・ジャパニーズ (Writing)	1前		2				○							兼1		
	アカデミック・ジャパニーズ (Reading)	1前		2				○							兼1		
小計 (24科目)		—	0	48	0			—		0	0	0	0	0	0	兼11	—
情報	情報リテラシー	1・2・3・4前		2				○								兼1	
	生活と情報	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	小計 (2科目)		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
運動と健康	運動と人間—講義	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	運動と人間—実技 I	1・2・3・4後		1					○		1						
	運動と人間—実技 II	1・2・3・4後		1					○							兼1	
	運動と人間—実技 III	1・2・3・4前		1					○							兼1	
	運動と人間—実技 IV	1・2・3・4前		1					○							兼1	
小計 (5科目)		—	0	6	0		—		1	0	0	0	0	0	兼3	—	
キャリア形成	キャリアデザイン I	1・2・3・4前		2				○								兼2	オムニバス
	キャリアデザイン II	1・2・3・4後		2				○								兼1	
	インターンシップ	2・3前		1					○							兼1	
	小計 (3科目)		—	0	5	0		—		0	0	0	0	0	0	兼3	—
人間と文化の理解	人間と思想	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	人間と芸術—美術	1・2・3・4後		2			○				1						
	人間と芸術—音楽	1・2・3・4後		2			○									兼1	
	人間と芸術—文学	1・2・3・4前		2			○									兼1	
	人間と文化	1・2・3・4前		2			○									兼1	
	人間と心	1・2・3・4前		2			○									兼1	
	小計 (6科目)		—	0	12	0		—		0	1	0	0	0	0	兼5	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	社会の理解	人間と社会	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		社会と歴史	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		社会と政治	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		社会と経済	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		社会と法	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2・3・4前	2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
	自然の理解	宇宙の科学	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		生物の科学	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
	現代の理解と地域	環境論	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		ジェンダー論	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		グローバル化論	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		日本語の方言と山梨	1・2・3・4後	2		○									兼1	
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	
	コミュニケーションの理解と心	プレゼンテーション	1・2・3・4後	2			○								兼4	共同
		グループワークと自己表現	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		カウンセリング基礎	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		発達と教育の心理	1・2・3・4後	2		○									兼1	
小計 (4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—		
導入科目	人間形成基礎演習Ⅰ	1前	1			○			2		1				共同	
	人間形成基礎演習Ⅱ	1後	1			○			2		1				共同	
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			2	0	1	0	0	0	—	
学部教養科目	地域ボランティア演習	1前	2			○								兼1		
	コミュニケーション基礎	1前	2		○									兼1		
	生と幸福	1・2前	2		○									兼1		
	生涯スポーツ	1・2後	2			○								兼1		
	私たちの人生と障がい	1・2後	2		○									兼1		
	社会調査の基礎	2前	2		○									兼1		
	社会統計学	1・2後	2		○									兼1		
	生・倫理・自立	3・4前	2		○									兼1		
	子どもの人権	1後	2		○									兼1		
	経済学入門	1・2前	2		○									兼1		
	統計学基礎	1・2前	2		○									兼1		
小計 (11科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—		
教育基礎理解	教育基礎論 (幼・小)	1前	2		○				1							
	教職概論 (幼・小)	1後	2		○					1						
	教育経営論 (幼・小)	1前	2		○									兼1		
	教育心理学 (幼・小)	1後	2		○					1						
	特別支援教育概論 (幼・小)	2前	2		○					1						
	教育課程論 (就学前)	2前	2		○					1						
	教育課程論 (小学校)	2前	2		○				1							
	幼小中連携	4後	2		○				1							
	保育の心理学	1前	2		○					1						
小計 (9科目)	—	0	18	0	—			2	2	0	0	0	兼1	—		
保育内容理解	保育内容 (健康)	1前	1			○			1							
	保育内容 (人間関係)	1前	1			○				1						
	保育内容 (環境)	1前	1			○					1					
	保育内容 (言葉)	1前	1			○					1					
	保育内容 (表現)	1前	1			○			1	1					共同	
	小計 (5科目)	—	0	5	0	—			1	2	2	0	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目	国語科基礎（書写を含む。）	2・3前		1			○								兼2	オムニバス	
	社会科基礎	2・3後		1			○		1								
	算数科基礎	2・3前		1			○								兼1		
	理科基礎	1・2後		1			○				1						
	生活科基礎	1後		1			○				1						
	音楽科基礎	1後		1			○								兼1		
	図画工作科基礎	2・3前		2			○			1							
	家庭科基礎	2・3後		1			○			1					兼2	オムニバス	
	体育科基礎	2・3後		1			○		1								
	英語科基礎	2・3前		1			○								兼2	オムニバス	
	教育内容（国語）Ⅰ	1通		1			○				1						
	教育内容（社会）Ⅰ	1通		1			○			1							
	教育内容（算数）Ⅰ	1通		1			○			1							
	教育内容（理科・生活）Ⅰ	1通		1			○				1						
	教育内容（音楽）Ⅰ	1通		1			○		1								
	教育内容（図画工作）Ⅰ	1通		1			○			1							
	教育内容（家庭）Ⅰ	1通		1			○			1							
	教育内容（体育）Ⅰ	1通		1			○		1								
	教育内容（外国語）Ⅰ	1通		1			○								兼1		
	教育内容（道徳）Ⅰ	1通		1			○		1								
	教育内容（国語）Ⅱ	1通		1			○				1						
	教育内容（社会）Ⅱ	1通		1			○			1							
	教育内容（算数）Ⅱ	1通		1			○			1							
	教育内容（理科・生活）Ⅱ	1通		1			○				1						
	教育内容（音楽）Ⅱ	1通		1			○		1								
	教育内容（図画工作）Ⅱ	1通		1			○			1							
	教育内容（家庭）Ⅱ	1通		1			○			1							
	教育内容（体育）Ⅱ	1通		1			○		1								
	教育内容（外国語）Ⅱ	1通		1			○								兼1		
	教育内容（道徳）Ⅱ	1通		1			○		1								
	教育内容（国語）Ⅲ	1通		1			○				1						
	教育内容（社会）Ⅲ	1通		1			○			1							
	教育内容（算数）Ⅲ	1通		1			○			1							
	教育内容（理科・生活）Ⅲ	1通		1			○				1						
	教育内容（音楽）Ⅲ	1通		1			○		1								
	教育内容（図画工作）Ⅲ	1通		1			○			1							
	教育内容（家庭）Ⅲ	1通		1			○			1							
	教育内容（体育）Ⅲ	1通		1			○		1								
	教育内容（外国語）Ⅲ	1通		1			○								兼1		
	教育内容（道徳）Ⅲ	1通		1			○		1								
小計（40科目）		—	0	41	0		—		3	4	2	0	0	兼8	—		
学	保育内容指導	教育方法論（就学前）	2前		2		○				1						
		乳幼児教育論	1前		2		○				1						
		保育内容総論	4前		1			○				1					
		健康領域指導法	2・3前		1			○		1							
		人間関係領域指導法	2・3前		1			○			1						
		環境領域指導法	1・2後		1			○				1					
		言葉領域指導法	1・2後		1			○				1					
		表現領域指導法（美術）	2・3前		1			○			1						
		表現領域指導法（音楽）	2・3後		1			○		1							
		表現領域指導法（身体表現）	2・3前		1			○		1							
		表現領域指導法（演劇表現）	3後		1			○								兼1	
		小計（11科目）		—	0	13	0		—		2	3	2	0	0	兼1	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科目 専門 科目	学習指導	教育方法論（小学校）	2前	2		○					1					
		ICT活用の教育の理論と方法（小学校）	2前	1		○					1					
		初等国語科指導法	3・4後	2		○									兼1	
		初等国語科指導法特講（書写）	3・4前	1				○							兼1	
		初等社会科指導法	3・4前	2			○								兼1	
		初等算数科指導法	3・4前	2			○								兼1	
		初等理科指導法	3・4前	2			○					1				
		初等生活科指導法	3・4前	2			○					1				
		初等家庭科指導法	3・4後	2			○				1				兼2	オムニバス
		初等図画工作科指導法	3・4後	4			○				1					
		初等音楽科指導法	3・4前	2			○			1					兼1	共同
		初等体育科指導法	3・4後	2			○			1						
		初等外国語科指導法	3・4後	2			○								兼3	オムニバス
		道徳教育の指導法（小学校）	2後	2			○			1						
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（小学校）	3前	2			○								兼1	休講
小計（15科目）	—	0	30	0	—	—	—	3	2	1	0	0	兼11	—		
分野 別 科目	生徒指導・ 教育相談等	生徒・進路指導（小学校）	2後	2		○								兼1		
		教育相談の理論と方法（幼・小）	1後	2		○								兼1		
		幼児・児童理解	1前	1				○			1					
		対象理解（障害）	2後	1				○			1					
		対象理解（養護）	2後	1				○						兼1		
小計（5科目）	—	0	7	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼3	—		
科目 専門 科目	社会的養護・ 子育て支援	社会福祉論Ⅰ	1前	2		○								兼1		
		子ども福祉論Ⅰ	1後	2		○								兼1		
		ケア概論	1前	2		○								兼1		
		社会的養護Ⅰ	2後	2		○								兼1		
		子どもの食と栄養Ⅰ	2前	1				○			1					
		子どもの食と栄養Ⅱ	2後	1				○			1					
		調理実習Ⅰ	2後	1				○			1					
		調理実習Ⅱ	2後	1				○			1					
		乳児保育Ⅰ	2前	2			○							兼1		
		乳児保育Ⅱ	2後	1				○						兼1		
		子どもの保健	2前	2			○							兼2	オムニバス	
		子どもの健康と安全	2後	1				○						兼2	オムニバス	
		障がい児保育Ⅰ	3前	1				○			1					
		障がい児保育Ⅱ	3後	1				○			1					
		社会的養護Ⅱ	3前	1				○						兼1		
		子ども家庭支援論	2後	2			○					1				
		子ども家庭支援の心理学	3前	2			○				1					
子育て支援演習	3後	1				○			1							
小計（18科目）	—	0	26	0	—	—	—	0	3	1	0	0	兼7	—		
科目 専門 科目	発展	ピアノ基礎実技	1通	1					○		1			兼2	共同	
		ピアノ実技Ⅰ	2通	1					○		1			兼2	共同	
		ピアノ実技Ⅱ（伴奏法を含む。）	3通	1						○		1				
		ピアノ実技Ⅲ	4通	1						○		1				
		社会福祉論Ⅱ	2後	2			○							兼1		
		子ども福祉論Ⅱ	2前	2			○							兼1		
		障害者福祉論Ⅰ	2前	2			○							兼1		
		高齢者福祉論Ⅰ	2前	2			○							兼1		
		日本語教育概論	2・3前	2			○							兼1		
		日本語教育特講（外国籍児童生徒等）	3・4前	2			○							兼1		
		多文化教育論（幼・小）	3後	2			○			1						
		子ども虐待の臨床	3後	2			○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科 目	幼児教育演習	3後		1			○									
	教育学演習(幼・小)	4前		1			○		1		1				兼1	共同
	児童文学	4前		2		○									兼1	
	心理学基礎演習	2後		1			○			1						
	幼児の理解と援助	2後		1			○			1						
	保育者指導	4後		2		○									兼1	
	身体表現演習	4通		2			○		2	1						共同
	総合表現演習	4通		2			○		2	1						共同
	教職実践演習(幼・小)	4後		2			○		3	4	2				兼1	オムニバス
	ソーシャルワーク援助技術論Ⅰ	1後		2		○									兼1	
	ソーシャルワーク援助技術論Ⅱ	2前		2		○									兼1	
小計(23科目)	—		0	38	0		—		3	4	2	0	0	兼13	—	
実 習 科 目	特別支援学校等インターンシップ	2前		1				○		1					兼2	オムニバス
	サービス・ラーニングⅠ(就学前)	1前		2			○		3	4	2					共同
	サービス・ラーニングⅠ(小学校)	1後		2			○		3	4	2					共同
	サービス・ラーニングⅡ(就学前)	2通		2			○			1						
	サービス・ラーニングⅡ(小学校)	2通		2			○		1							
	学校インターンシップ(就学前)	3通		2				○	2	4	1					共同
	学校インターンシップ(小学校)	3通		2				○	1		1					共同
	幼稚園実習指導Ⅰ	3前		1			○				1					
	幼稚園実習指導Ⅱ	4前		1			○				1					
	小学校実習指導	4通		1			○		1		1					共同
	幼稚園実習Ⅰ	3前		2				○	3	4	2					共同
	幼稚園実習Ⅱ	4前		2				○	2	4	1					共同
	小学校実習	4通		4				○	1		1					共同
	保育所実習指導Ⅰ	2後		1			○				1					
	施設実習指導Ⅰ	2・3後		1			○			1						
	保育所実習指導Ⅱ	3後		1			○				1					
	施設実習指導Ⅱ	3後		1			○			1						
	保育所実習Ⅰ	2後		2				○	3	4	2					共同
保育所実習Ⅱ	3後		2				○	3	4	2					共同	
施設実習Ⅰ	2・3通		2				○	3	4	2					共同	
施設実習Ⅱ	3後		2				○	3	4	2					共同	
小計(21科目)	—		0	36	0		—		3	4	2	0	0	兼2	—	
卒 業 研 究	人間形成課題演習	2後		1			○		3	4	2					共同
	人間形成卒業研究Ⅰ	3通		2			○		3	4	2					共同
	人間形成卒業研究Ⅱ	4通		4			○		3	4	2					共同
	小計(3科目)	—		7	0	0		—		3	4	2	0	0	0	—
合計(219科目)		—		9	343	0		—		3	4	2	0	0	兼80	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（人間福祉学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>「全学共通科目」から22単位以上と、「人間形成学科専門科目」から83単位以上を合計して124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間））</p> <p>「全学共通科目」については、「基礎科目」から「総合英語Ia」「総合英語Ib」「総合英語IIa」「総合英語IIb」より4単位を含む8単位以上、「教養科目」から8単位以上、計22単位以上を修得すること。</p> <p>「人間形成学科専門科目」については、必修科目9単位、「学部教養科目」から8単位以上、「専門基礎科目」の「教育基礎理論」から12単位以上、「保育内容理解」から5単位以上、「教育内容理解」から「教育内容Ⅰ」「教育内容Ⅱ」「教育内容Ⅲ」の各分野からそれぞれ1単位以上を含めて8単位以上、「分野別科目」の「保育内容指導」及び「学習指導」から12単位以上、「生徒指導・教育相談等」から3単位以上、「社会的養護・子育て支援」から16単位以上、「発展科目」から10単位以上、計83単位以上を修得すること。</p> <p>（注）本学部の教育課程に加え、学部開放科目、連携開設科目、PENTAS YAMANASHI科目等による単位も卒業単位に加えることができる。</p>						1 学年の学期区分			2期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院修士課程人間福祉学専攻科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	人間福祉学特講	<p>人間福祉学は実践と理論が交錯し、また多様な学問領域に横断的に関わる学問である。本講義は、人間福祉学に関する学問的背景（思想・歴史・価値等）を広く理解させることを目的とし、人間福祉学の背景を、他の学問分野の知識も含めて広く修得することが、本講義の目的となる。</p> <p>（オムニバス方式 全15回）</p> <p>④ 山田勝美/4回</p> <p>・人間福祉学において重要な人権の概念について、とくに子どもの人権に焦点を当てて理解を深める。また、人間福祉学を、社会福祉の成立の歴史と関連させながら検討し、教授することにより、人間福祉学そのものへの理解を深いものにする。</p> <p>（18橋爪大輝/4回）</p> <p>・ソーシャルワークの根幹をなす倫理や正義について、義務論や功利主義、自由主義といった倫理学理論や、ロールズの正義論以降まで概観する。</p> <p>（16石垣千秋/2回）</p> <p>・社会福祉は、社会・政治システムのなかで、それと緊密に関連しつつ機能するものであり、こうしたシステムへの理解は必須であるため、その基本的な事項を概説する。</p> <p>（8池田充裕/2回）</p> <p>・ソーシャルワークを展開するにあたって課題となる多様性やそこから生じる差別の問題に関する知識を教授する。</p> <p>（11里見達也/3回）</p> <p>・育てにくさの大きな課題となっている子どもの多様な障害について理解を深めるとともに、特に発達障害とその支援について、現状を概説する。</p>	オムニバス方式
基礎 科目	人間福祉学研究方法	<p>人間福祉学の研究方法を概観し、広く身に着けることを目的とする。人間福祉学は、実践が研究を促し、研究が実践に還元され、また実践が研究を喚起するという、実践と研究が密接に接続する分野である。まずこの実践と研究の接続を押さえる。また、人間福祉学は社会科学としての側面をも持つが、社会科学が現実を理解するうえでの原理的問題（社会という対象の存在性格や、原因と結果という概念等）も理解する。それを踏まえたうえで、本講義の本体部分では、量的調査（社会統計、質問紙調査等）・質的調査（インタビュー等）の方法や、それらの結果を分析する技能を広く概観する。最後に、研究者として身に着けておかねばならない研究倫理をしっかりと習得させる。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（15 高木寛之/6回）</p> <p>実践と研究、社会科学としての人間福祉学を概観し、質的調査の特徴、設計、対象者の選定、調査方法、データ分析について解説する。</p> <p>（17 太田研/5回）</p> <p>量的調査の特徴と調査設計、量的調査の方法とデータ解析について教授する。</p> <p>（18 橋爪大輝/4回）</p> <p>研究者としての研究倫理、個人情報保護等、研究に必須の研究倫理を習得させる。</p>	オムニバス方式

基礎科目	スーパービジョン特講	<p>(概要) 職場や機関のスーパーバイザーとして機能していくための知識、特に、スーパービジョンの構造と内容について十分に教授できるようにする。基本的には、KADUSHINのスーパービジョンに学びつつ、必要に応じて他の文献にもあたりながら、理解を深められるよう展開していく。</p> <p>特に、実践において展開しうることが肝要であると考えられるため、実践における課題等、特に、学生のスーパーバイザー及びスーパービジョン経験をふまえ、その実践を評価検討し、効果的、実践的なスーパービジョンを学べるよう授業を展開していく。具体的には、スーパービジョンの歴史、概念、構造を概説し、管理的スーパービジョン、教育的スーパービジョン、支持的スーパービジョンについて理解を深め、自らの実践について、各機能におけるスーパービジョンの評価について検討する。そのうえで、実践現場にスーパービジョンシステムを具体的に位置づけるための方策について明確化できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式 /全15回)</p> <p>(② 相澤 仁/8回) スーパービジョンの歴史、概念、構造を概説し、管理的スーパービジョン、教育的スーパービジョン、支持的スーパービジョンについて理解を深め、スーパービジョンの評価について検討する。</p> <p>(④ 山田勝美/3回) スーパーバイザー主体の支援の立場から、管理的、教育的、支持的スーパービジョンにおける実践的課題について検討する。</p> <p>(共同) (2相澤仁 7山田勝美 /4回) 1回目は講義のオリエンテーションを共同で行う。講義終盤、第13回、第14回は自らの施設・機関等(働いていない学生は実習施設)にいかなるスーパービジョンシステムを導入するかを2名の教員と共に協議し、第15回は前回の協議と授業全体をふまえ、教員2名で総括する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
基幹科目	子ども虐待領域	子ども虐待臨床特講	<p>虐待を受けた子どもに適切な支援を行うためには、虐待というトラウマ性の体験が子どもに与える心理的影響や、ネグレクトに起因するアタッチメントの形成不全に関連した精神的な問題を理解する必要がある。本講義では、こうした心理・精神的問題を抱えた子どもの回復を促進するための支援のあり方を概観する。</p>
基幹科目	子ども虐待領域	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴	<p>家庭が適切な養育能力を回復できるように親・家庭を支援するためには、子ども虐待を生じる親・家族の心理・社会的特徴の的確なアセスメントが求められる。本講義では、虐待が生じる親の心理的特徴や家族の社会的特徴を、世代間伝達の事例を中心に検討する。</p> <p>子ども虐待を生じる精神力動的プロセスとして指摘されているものに「世代間連鎖」、すなわち虐待を受けて成長した人が、親として子どもを虐待するという現象がある。児童相談所等の社会的介入が必要とされる中程度の虐待や、虐待死亡事例といった重度の虐待に事例においては、ほぼ全ての事例で世代間伝達が生じていることが確認されている。世代間伝達を生じる要因である、虐待を受けて育つことによる「体罰肯定感」「被害的認知」「自己欲求の優先傾向」等について事例をもとに理解を深める。</p>

基幹科目	子ども虐待領域	アタッチメント理論の臨床応用	<p>親子関係の重要性が注目されたのは19世紀の孤児院末で死亡が多かったことによる。栄養や感染だけではなく、親子の関係性が重要であると考えられるようになったからである。その後、第二次世界大戦でヨーロッパに多くの孤児が生じたことから更に親子関係に関する研究が進んだ。その中から、Bowlby, J.によりアタッチメント理論が構築され、実証的に関係性の評価ができるようになったこともあり、飛躍的に研究が進んだ。分離猿の実験を含めた親子関係の研究の系譜をたどり、Bowlbyのアタッチメント行動に関する理解を進め、アタッチメントの型分類および病的なアタッチメント、安全基地の歪みと子どもの行動、DSM-IIIに始まるアタッチメント障害という考え方、アタッチメント対象からの分離および喪失の影響、を学ぶことにより、アタッチメント形成の重要性を学び、妊娠期からの乳幼児期にいたる早期の支援、アタッチメント形成に問題がある子どもへのケアのあり方について学ぶことを目的とする。</p>	
基幹科目	子ども虐待領域	ソーシャルペダゴジー	<p>施設養育が治療的機能を果たすためには治療的養育(therapeutic care)が必要となる。治療的養育においては、「安全、安心感の形成」「心理的な被保護感の形成」を基盤とし、その基礎の上に「対人関係の歪みの修正」「アタッチメントの形成とアタッチメント対象の内化」「自己調節機能の形成」「問題行動の理解と自己への統合」という支援の課題が設定される。</p> <p>本講義では、これら、社会的養護における治療的養育のあり方を修得する。加えて、大陸欧州において長い歴史を有する、子どもの発達保障を社会全体で担うことを中心としたソーシャルペダゴジー(social pedagogy)について理解を深める。</p>	
基幹科目	子ども虐待領域	子ども虐待とアドボカシー	<p>アドボカシーは、「代弁機能」や「権利擁護」と訳される、わが国においては比較的新しい概念である。ソーシャルワークの利用者(ユーザー)は、多くの場合社会的弱者であり、そうした利用者の「声」を適切に捉え、ソーシャルワークに活用し、また、法制度の改革につなげるなど、アドボカシーはソーシャルワークにおいて重要な機能を担っていると言える。とりわけ、虐待やネグレクトを受けた子どもや、社会的養育を経験して成長した人たちの抱える困難が社会の意識にのぼるには、ソーシャルワークによる適切なアドボカシー機能が欠かせないといえる。</p> <p>本講義では、特に子ども虐待と非行臨床の領域におけるアドボカシーの歴史、現状、および課題に関して解説する。</p>	

<p>基幹科目</p>	<p>子ども虐待領域</p>	<p>小児精神医学特講</p>	<p>子どもの精神的な問題は育てにくさに繋がるために子ども虐待のリスクである。一方、虐待やネグレクトなどの不適切な養育は、子どもにさまざまな精神的影響を与える。特に、アタッチメント形成への影響と虐待によるトラウマは虐待環境に育った子どもの精神発達および身体発達に大きな影響を与える。近年の小児期逆境体験の研究からも、虐待を始めとする小児期逆境体験は成人期にまで影響するような心身の問題が明らかになっている。</p> <p>子どもの精神的な問題を早期に診断して適切に治療やケアを行っていくことが子どもの将来の福祉にとって重要な影響を与える。</p> <p>学生たちが、①精神医学の歴史と今、②症状の把握の仕方、③子どもの発達・精神的発達とその診方、④精神的状態の診察 (Mental Status Examination)、保護者への問診、それらを纏めての見立て (Formulation)、⑤精神医学の診断体系の変遷と現在の診断基準の考え方、⑥小児精神科でよく見られる疾患、⑦子どもの周囲の大人の精神疾患、⑧精神医学の治療の考え方、種類、適用、に関する知識を得ることにより、a. 精神科の診断がついている子どもや家族等に関してのイメージが持てること、b. 精神科の受診を勧めるべき状態を的確に判断できること、c. 精神医療関係者とのコミュニケーションが取れてよい連携ができることを目的とする。</p>	
<p>関連科目</p>	<p>子ども理解領域</p>	<p>臨床発達心理学特講</p>	<p>人が自己実現に向かって生涯にわたり発達していく過程では、様々な臨床的な問題が起こりうる。特に、子どもの発達期では、感情調整の困難さや暴力行為、抑うつ症状、不登校、いじめなどが臨床的な問題の一例である。これらの問題について臨床発達心理学の視点から情報を収集し、問題の成り立ちを見立てるためには、病理モデルに基づく生物的要因のみならず、発達特性やパーソナリティといった心理的要因、生活環境や制度といった社会的要因を含めて統合的に仮説を生成する必要がある。情報収集から介入、効果評価の過程では、実践家の技量や興味ではなく、科学的根拠に裏付けられたエビデンスに基づく最良の実践が求められる。</p> <p>本講義では、臨床発達心理学に関する包括的かつ最先端の知識を授け、受講者が子どもの臨床発達支援のために生物的要因・心理的要因・社会的要因の情報収集から統合的な仮説生成、介入の選択をエビデンスに基づいて判断する能力を育成する。</p>	

関連科目	子ども理解領域	子どものウェルビーイング特講	<p>子どもが健康、すなわち、肉体的にも精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態であるために、生活の質をどのようにして高めるか、生活リズム、運動遊び、食生活の観点から、子どものwell-beingに関する課題への理解を深める。また、子どものwell-beingの実現を阻害している要因を把握する方法、多様な課題に応じた支援、子ども・家庭の主体的な問題解決を促す環境設定・方法および評価方法を理解する。そして、子ども家庭福祉・地域福祉・幼児教育の現場における実践と研究の接続をおさえ、自身の実践において、研究成果を実践現場に活用する方法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 高野牧子/7回) 乳幼児期の生活リズムの確立や運動発達に関する学術論文を講読し、心身の発達に及ぼす影響、適切な支援・援助方法を理解する。</p> <p>(13 鳥居美佳子/8回) 乳幼児期の生活習慣（とくに食生活）に関する学術論文を講読・要約・発表し、乳幼児期の生活習慣が心身の発達に及ぼす影響、適切な支援・援助方法を理解する。また、食生活や食行動、健康教育に関する様々な分野の論文を講読し、健康教育の理論やデータ収集・解析手法の基礎、健康教育の成果の評価指標を理解し、保育実践や家庭支援の実践における先行研究の活用方法を議論する。</p>	オムニバス方式
関連科目	子ども理解領域	発達障害支援特講	<p>授業の目標は、発達障害についての基本的知識を身につけ、支援の実際を学ぶ。さらにインクルーシブな支援と教育のありかたが理解できるようになることである。また、市民、友人、家族、支援者、施策立案者、職場の同僚や上司などいかなる立場にあっても、必要に応じていつでも寄り添おうとする素地を養う。</p> <p>授業の内容は、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害等の理解と支援の基本を講義する。近年、障害の捉え方、支援のあり方が問い直されており、本講義ではこうした動向についても取り上げて、「障害とは何か」の問いに自分なりの考えをまとめられ、実践に移そうとする姿勢を育てる。</p>	
関連科目	子ども理解領域	多文化共生教育・保育特講	<p>今日、日本国内の幼児教育や保育、子育て支援の現場では、外国とつながりのある子どもの受け入れが広がっており、その保護者の子育てを支援できる人材が求められるようになってきている。本講義では、日本と海外の幼児教育・保育の比較も踏まえて、多文化共生社会における幼児教育・保育のあり方を異文化間教育学やグローバル教育学の視点から分析・考察する。さらに、保育者に求められる子ども理解や異文化間コミュニケーション等の資質・能力、受入施設の経営改革や改善のプロセス、国や各自自治体に求められる行政施策などについて具体的に検証し、多文化共生に向けた幼児教育や保育、子育て支援を実現するための方策を多面的・包括的に探究する。</p>	

関連科目	子ども理解領域	子どもの表現特講	<p>(概要) 子どもの主体的な遊びや生活の中で見られる多様な表現について、身体表現、言語表現、造形表現の3つの視点から、高度な専門的知識を教授する。子どもの表現に関する事例をドキュメンテーションとして記録することにより、発達の状況と課題を客観的に理解する方法を指導し、事例を基に、表現から子どもの内面を読み解き、どのように対応すべきであるか検討する。特に、複雑で深刻な課題を抱えた子どもが自分自身を表し、受容される機会を多く設け、自己有能感を育むための環境構成や教材等、多様な援助の方法を教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 高野牧子/5回) 身体表現に関する文献を講読し、身体表現を観察する視点を理解し、それを基に子どもの身体表現事例から課題を読み取ると共に、子どもが自分の思いを自由に身体で表現できるような適切な支援・援助方法を理解する。 (19 奥谷佳子/5回) 乳幼児期の言語発達・言語活動に関する学術論文を講読・要約・発表し、研究デザインやデータ解析手法の基礎、研究の進め方を学ぶ。また、言語発達・言語活動に関する事例を検討し、乳幼児の発達する姿を言語発達や人間関係など様々な側面から総合的に捉え、発達にとって必要な経験が得られる環境構成・適切な支援・援助方法を理解する。 (14 古屋祥子/5回) 美術教育に関する文献を講読し、子どもの造形表現における観察の視点を理解する。それを基に子どもの造形表現に関する事例を検討し、その表現から子どもの課題を読み取ると共に、子どもが自由に思いを表現できるような適切な支援・援助方法を理解する。</p>	オムニバス方式
関連科目	ソーシャルワーク領域	ソーシャルワークの価値と理論	<p>ソーシャルワークの価値と理論を時系列的に概観し、主に障害福祉に焦点を当て、制度や実践に照らして、その重要性や問題を捉える。また社会福祉の理念や思想とソーシャルワークの価値や理論が影響し合うことを踏まえつつ、それらに相反する価値等、例えば社会防衛思想等にも触れつつ、ソーシャルワーク実践において多く起こりえる倫理的ジレンマをソーシャルワークの価値と理論に照らして確認する。更には、日本のソーシャルワーカーの歴史的展開過程におけるソーシャルワークの普遍的な価値、分野を超えた広い視点からソーシャルワークの理論の水脈を把握し、ソーシャルワークの価値および理論が構造的に内包している問題を個々もしくは総合的に検証する作業を行う。これらを通し、価値や理論の理解が実践に溶け込むよう教授する。</p>	
関連科目	ソーシャルワーク領域	ソーシャルワークの実践と分析	<p>対人援助においては、実践を振り返り検証することは必要不可欠である。当科目では、実践事例を振り返り分析を行うために必要な知識を学習し、そのうえで各受講生が自らの実践事例をまとめ、それを素材として事例検討を実施する。他者の事例に触れそれを読み解くこと、他者の事例にフィードバックを行うこととあわせて、実践力の向上を図る。</p>	
関連科目	ソーシャルワーク領域	ファミリーソーシャルワーク特講	<p>本講義では、社会的養護にある子どもの起こす様々な問題現象の背景に多くの場合、家族問題があること、その理解をもてるようまずは教授する。そのうえで、子どもといかに家族問題を共有し、その解決を図るのかを教授する。同時に、その家族問題を構築している親自身をいかに展開するかも重要となり、そうした親との関係構築、そして、親自身の問題認識への支援、そのうえで子どもへの説明及び謝罪等へと展開しうる一連の援助過程を理解できるよう教授する。</p>	

関連科目	ソーシャルワーク領域	地域福祉論特講	<p>本授業では、地域福祉計画等に示される定量データ、地域踏査や実践事例による定性データをもとに地域生活課題を分析する。そこで示された地域生活課題について、不特定多数の人々への影響を想定し、社会不正義、意図的なコミュニティ実践、組織運営管理、政策実践といった視点からの介入方法を習得する。また、受講生の持つ実践事例をワーカー、クライアント、ターゲット、アクションの4つのシステム理論から捉え、コミュニティへの介入の基本戦略を議論する。</p>	
関連科目	ソーシャルワーク領域	地域福祉マネジメント実践方法論特講	<p>(概要) 地域包括ケアシステムの概念整理とそれを支えるケアマネジメントの在り方について検討し、地域特性を活かした組織の構築と他機関・他職種との協働による地域包括ケアの展開過程における地域福祉マネジメントの実践方法について学修する。</p> <p>生活支援の実際について幅広い視点で捉え、多様化する人々の暮らし方や地域ニーズの在り方に寄り添う支援を提供するための仕組みと流れについて、理論と実践を統合させながら実践力と課題解決力の習得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(5 中島朱美/6回) 地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの意義を論説し、ミクロレベルからマクロレベルへのケアマネジメントの展開を理解する。また、高齢者を対象と地域における課題を分析し、支援活動の実際について検討する。また、地域包括支援センターのガバナンスと事業評価を検討するとともに、地域支援活動に向けた協働と組織化活動を理解する。</p> <p>(9 大塚ゆかり/4回) 地域包括ケアシステムを基盤とした実践的な地域作りや地域特性に見る社会資源の課題整理・地域診断と組織分析を検討する。さらに、障害者を対象とした地域における課題分析や支援活動の実際について理解する。</p> <p>(10 青柳暁子/4回) マネジメントのための多機関、多職種を理解し、多機関、多職種とマネジメント体制の構築について理解する。また、多様化する地域ニーズへの組織的対応について検討する。</p> <p>(共同) (5中島朱美、9大塚ゆかり、10青柳暁子/1回) 総括として、地域福祉マネジメントを活用した地域包括支援システム等について、院生による学びを課題レポートにより集約し、各教員による講評をおこなう。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
関連科目	ソーシャルワーク領域	福祉行財政学特講	<p>福祉に関する政策は、様々な政策のなかでも地方分権化がはかられ、特に基礎自治体である市町村が実施主体と定められていることが多い。また、1990年代以降、福祉分野にはNPOや民間企業などの参入も多い。本講義では、地方分権化、多様化した福祉行政の動向を理解するとともに、中央集権化している財政の動向を理解する。行政学の基礎を理解し、最新動向を分析しながら、行政機関や地域福祉領域での実務の理論的基礎を築く。</p>	

<p>実習・演習科目</p>	<p>実習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実習Ⅰ (施設)</p>	<p>社会的養護系施設では、高機能化を図ることが求められている。特に、攻撃性や支配性の高さや性化行動等に象徴される重篤な問題への治療的養育を展開できる専門性が期待されている。</p> <p>さらに、虐待をした親自身の抱える問題に接近し、親自身が自らと向き合いながら、問題解決を図っていくための専門性の体得も必須となっている。</p> <p>本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。</p> <p>具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。</p> <p>共同 (④ 山田勝美 ⑤林 知然) /全15回</p> <p>④ 山田勝美 実習先での指導者及び学生との指導経過を把握し、実際の指導を行い、かつ調整を図る。</p> <p>⑤ 林知然 実習先の指導者と情報共有しながら、学生に補助的指導を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>実習・演習科目</p>	<p>実習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅)</p>	<p>複合的な困難を抱え、不適切な養育状態にありながら支援を求められない保護者、そして保護者のもとにしながら助けを求めにくい子どもたち、そうした家族を支援する専門性、加えて、多機関連携をマネジメントする力量が求められている。</p> <p>本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。</p> <p>具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。</p> <p>共同 (④ 山田勝美 ⑤林 知然) /全15回</p> <p>(④ 山田勝美) 実習先での指導者及び学生との指導経過を把握し、実際の指導を行い、かつ調整を図る。</p> <p>(⑤ 林知然) 実習先の指導者と情報共有しながら、学生に補助的な指導を行う。</p>	<p>共同</p>

<p>実習・演習科目</p>	<p>実習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所)</p>	<p>虐待のリスクをアセスメントする能力、攻撃性や支配性の高い親のそうした態度を受けとめつつ関係形成を図る能力、そのうえで、親自身がその生育歴のなかで抱え込まれているトラウマや過去の傷つき体験の聴き取りやケア、そのうえで、親が自らの生活を主体的に再建していくための支援等、児童相談所に求められている専門性も高度化したものとなっていると考えられる。</p> <p>本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。</p> <p>具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。</p> <p>共同 (④ 山田勝美 ⑤林 知然) /全15回</p> <p>(④ 山田勝美) 実習先での指導者及び学生との指導経過を把握し、実際の指導を行い、かつ調整を図る。</p> <p>(⑤ 林知然) 実習先の指導者と情報共有しながら、学生に補助的な指導を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>実習・演習科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実践演習Ⅰ (施設)</p>	<p>対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。</p> <p>子ども家庭福祉実習Ⅰ (施設) において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。</p> <p>この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。</p> <p>加えて、本演習では、児童養護施設や里親家庭などの社会的養護のもとにいる子どもやその家族へのソーシャルワーク的支援を扱うため、社会的養護に関する法制度の問題点の検討を行う。</p>	

<p>実習・演習科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅）</p>	<p>対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。</p> <p>子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅）において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。</p> <p>この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。</p> <p>加えて、本演習では、市町村等が在宅支援を提供している子どもやその家族へのソーシャルワーク的支援を扱うため、在宅支援に関するコミュニティソーシャルワークのあり方を検討する。</p>	
<p>実習・演習科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>子ども家庭福祉実践演習Ⅲ（児童相談所）</p>	<p>対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。</p> <p>子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。</p> <p>この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。</p> <p>加えて、本演習では、子ども虐待への対応の中核的役割を担う児童相談所の子どもやその家族へのソーシャルワーク的支援を扱うため、子ども家庭福祉に関する法制度の問題点の検討を行う。</p>	

<p>実習・演習科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>人間福祉実践演習 I</p> <p>学生の興味関心に基づき、多様な実践現場の事例を取り上げ、学生が言語化した問題事例の報告や分析内容について、複数の教員から専門的なスーパーバイズを受け、問題解決に向けて、新たな方策を検討する。検討した方策を現場に持ち帰って、改善に取り組み、検証を行う。このようなPDCAサイクルによって自身の実践力を高めるとともに、スーパーバイズの具体的な方法についても学び、実践現場で自らがスーパーバイズできるような基礎的な力を養う。</p> <p>また「人間福祉学課題研究」で特定課題研究レポートを取りまとめる学生については、言語化の過程において先行研究を踏まえて研究計画書の作成を進め、特定課題研究計画発表会でリサーチ・プランを発表し、教員からレビューを受ける。必要な場合には、研究倫理審査を受け、指導教員の指導の下、審査の基準・方法について実践を通して学ぶ。</p> <p>主な実践・研究領域は、社会福祉、介護福祉、精神保健福祉、地域福祉、幼児教育・保育、発達障害・障害児支援の各領域である。各領域の担当者は以下の通りである。</p> <p>共同（4柳田正明 5中島朱美 6高野牧子 ④山田勝美 8池田充裕 9大塚ゆかり 1青柳暁子 11里見達也 12伊藤健次 13鳥居美佳子 14古屋祥子 15高木寛之 17太田研 19奥谷佳子）/ 全15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉領域：4柳田正明 ・子ども家庭福祉領域：④山田勝美 ・介護福祉領域：5中島朱美・10青柳暁子・12伊藤健次 ・精神保健福祉領域：9大塚ゆかり ・地域福祉領域：15高木寛之 ・幼児教育・保育：6高野牧子、8池田充裕、13鳥居美佳子、14古屋祥子、19奥谷佳子 ・発達障害、障害児領域：11里見達也、17太田研 	<p>共同</p>
<p>実習・演習科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>人間福祉実践演習 II</p> <p>実践現場における多機関、多職種連携に関わる問題事例を収集し、学生が言語化した問題事例の報告や分析内容について、専門領域の大学教員からスーパーバイズを受け、問題解決に向けて、新たな方策を検討する。検討した方策を現場に持ち帰って、改善に取り組み、検証を行う。このようなPDCAサイクルによって自身の実践力と連携力を高めていく。</p> <p>また「人間福祉学課題研究」において特定課題研究レポートを取りまとめる学生については、レポートの作成に向けて、実践現場での事例分析と改善結果を総合し、自身の研究課題の仮説の検証も進める。</p> <p>主な実践・研究領域は、社会福祉、介護福祉、精神保健福祉、地域福祉、幼児教育・保育、発達障害・障害児支援の各領域である。基本的に複数名で担当し、課題によって領域をまたがる場合には関連する複数名で担当する。各領域の担当者は以下の通りである。</p> <p>共同（4柳田正明 5中島朱美 6高野牧子 ④山田勝美 8池田充裕 9大塚ゆかり 10青柳暁子 11里見達也 12伊藤健次 13鳥居美佳子 14古屋祥子 15高木寛之 17太田研 19奥谷佳子）/全15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉領域：4柳田正明 ・子ども家庭福祉領域：④山田勝美 ・介護福祉領域：5中島朱美・10青柳暁子・12伊藤健次 ・精神保健福祉領域：9大塚ゆかり ・地域福祉領域：15高木寛之 ・幼児教育・保育：6高野牧子、8池田充裕、13鳥居美佳子、14古屋祥子、19奥谷佳子 ・発達障害、障害児領域：11里見達也、17太田研 	<p>共同</p>

<p style="text-align: center;">研究 科 目</p>	<p style="text-align: center;">人間福祉学特別研究 I</p>	<p>人間福祉学特別研究は、専門分野における自らの興味・関心に従い、基礎科目及び基幹科目、関連科目、実習・演習科目による積み上げてきた学修成果を深化・発展させ、修士論文にまとめ、発表することを目的とする。</p> <p>人間福祉学特別研究 I では、自己が持つ研究課題を国内外の文献のクリティークやディスカッションから焦点化させ決定し、福祉実践の新規的かつ独創的な研究を行うための研究計画書の作成について教授する。</p> <p>以下を参考に、自身の研究課題につながる指導が可能な主担当を決定する。</p> <p>① 西澤 哲 虐待臨床に関する課題や虐待傾向を示す親を対象とし、統計手法を用いた量的研究や事例分析などについての研究指導を行う。</p> <p>② 相澤仁 施設養育、社会的養護、非行、ソーシャルワークの問題等を主とする質的研究方法による研究課題について指導を行う。</p> <p>③ 奥山眞紀子 小児精神保健、子どもの心の課題、トラウマ理解と援助等の観点から研究指導を行う。</p> <p>4 柳田正明 障害者福祉の中でも特に知的障害者を研究対象としたソーシャルワークの事例を通して、法制度および実践での諸問題について研究指導を行う。</p> <p>5 中島朱美 地域包括ケアシステムの推進をめぐる課題ならびに高齢者の支援体制の在り方についての研究指導を行う。</p> <p>6 高野牧子 実践研究、LABAN理論を基にしたVTR分析の手法を用いて、幼児の身体表現や幼児と保護者を対象とした身体表現遊びの支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>④ 山田勝美 子ども家庭福祉、虐待対応について、被虐待児や保護者への支援に関する事例検討を基にした質的研究や家庭的養育のあり方などについて、養護施設等へのヒアリング調査などの方法を基にした検討を進めていく実践的な諸問題について研究指導を行う。</p> <p>8 池田充裕 多文化共生社会における幼児教育・保育のあり方について考察を深め、研究課題の明確化に向けての研究指導を行う。</p> <p>9 大塚ゆかり 精神保健福祉に関する課題について、特にピアカウンセリングの有効性等の研究指導を行う。</p> <p>10 青柳暁子 高齢看護及び地域看護の領域の中で、特に地域連携やアクティビティケアに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>11 里見達也 特別支援教育、発達障害児の支援、障害児保育を研究課題として指導を行う。</p> <p>13 鳥居美佳子 食行動・食事内容および食が生体に及ぼす影響について、時間栄養学の視点から長期的かつ時系列的にデータ収集・分析し、支援に向けての課題研究の指導を行う。</p>	
---	--	--	--

<p>研究科目</p>	<p>人間福祉学特別研究 I</p>	<p>14 古屋（石川）祥子 幼児の造形活動や触察鑑賞に関わる研究課題について指導を行う。</p> <p>15 高木寛之 社会学的見地より地域福祉、ボランティア、社会福祉政策学に関わる研究の指導を行う。</p> <p>16 石垣千秋 主に社会保障制度、医療制度（諸外国との比較を含む）について、制度研究、制度改革に関する研究課題について、主に質的研究方法によるものについて研究の指導を行う。</p> <p>17 太田研 知的・発達障害児や診断閾下児の発達過程や心理アセスメントに基づく支援、コンサルテーションに関する先行研究のメタ・アナリシスやメタ・シンセシスについて研究指導を行う。</p> <p>18 橋爪大輝 人間福祉学の背景をなす倫理学や社会思想等に関する課題ととくにフォーカスして、文献のサーヴェイや解釈・読解、文章執筆の研究指導を行う。</p>	
<p>研究科目</p>	<p>人間福祉学特別研究 II</p>	<p>人間福祉学特別研究 II では、研究倫理に沿って研究の一連の過程を踏みながら、学位論文を作成できる能力が得られるよう教授する。また、中間発表を行い、研究過程における課題を明確にし、必要な場合は軌道修正し、研究を深化あるいは発展するよう指導する。</p> <p>① 西澤 哲 虐待臨床に関する課題や虐待傾向を示す親を対象とし、統計手法を用いた量的研究や事例分析などについての研究指導を行う。</p> <p>② 相澤仁 施設養育、社会的養護、非行、ソーシャルワークの問題等を主とする質的研究方法による研究課題について指導を行う。</p> <p>③ 奥山真紀子 小児精神保健、子どもの心の課題、トラウマ理解と援助等の観点から研究指導を行う。</p> <p>4 柳田正明 障害者福祉の中でも特に知的障害者を研究対象としたソーシャルワークの事例を通して、法制度および実践での諸問題について研究指導を行う。</p> <p>5 中島朱美 地域包括ケアシステムの推進をめぐる課題ならびに高齢者の支援体制の在り方についての研究指導を行う。</p> <p>6 高野牧子 実践研究、LABAN理論を基にしたVTR分析の手法を用いて、幼児の身体表現や幼児と保護者を対象とした身体表現遊びの支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>④ 山田勝美 子ども家庭福祉、虐待対応について、被虐待児や保護者への支援に関する事例検討を基にした質的研究や家庭的養育のあり方などについて、養護施設等へのヒアリング調査などの方法を基にした検討を進めていく実践的な諸問題について研究指導を行う。</p>	

<p>研究科目</p>	<p>人間福祉学特別研究Ⅱ</p>	<p>8 池田充裕 多文化共生社会における幼児教育・保育の政策・制度・実践に関して、具体的な研究課題を設定し、フィールドワーク調査による事例分析と論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>9 大塚ゆかり 精神保健福祉に関する課題について、特にピアカウンセリングの有効性等の研究指導を行う。</p> <p>10 青柳暁子 高齢看護及び地域看護の領域の中で、特に地域連携やアクティビティケアに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>11 里見達也 特別支援教育、発達障害児の支援、障害児保育を研究課題として指導を行う。</p> <p>13 鳥居美佳子 人間福祉学特別研究Ⅰで焦点化した課題の解決に向け、食行動変容のための介入実践・モニタリング、収集したデータの多角的分析方法と活用を研究課題として、時間栄養学的観点から指導する。</p> <p>14 古屋祥子 幼児の造形活動や触察鑑賞に関わる研究課題について指導を行う。</p> <p>15 高木寛之 社会学的見地より地域福祉、ボランティア、社会福祉政策学に関わる研究の指導を行う。</p> <p>16 石垣千秋 主に社会保障制度、医療制度（諸外国との比較を含む）について、制度研究、制度改革に関する研究課題について、主に質的研究方法によるものについて研究の指導を行う。</p> <p>17 太田研 知的・発達障害児や診断閾下児の発達過程や心理アセスメントに基づく支援、コンサルテーションに関する研究課題について、パイロットスタディを実施し、研究の展開について指導を行う。</p> <p>18 橋爪大輝 人間福祉学の背景をなす倫理学や社会思想等に関する課題にとくにフォーカスして、文献のサーヴェイや解釈・読解、文章執筆の研究指導を引き続き行いつつ、論文のための表現や論理、構成等をはじめとする学術的な文章技法を具体的に指導する。</p>	
<p>研究科目</p>	<p>人間福祉学特別研究Ⅲ</p>	<p>人間福祉学特別研究Ⅲでは、自身の研究成果を修士論文としてまとめ、論理的かつわかりやすく研究内容を口頭発表できるよう、指導教授する。 これにより、自立した研究活動を推進できる能力を修得し、福祉実践の場に還元できる知の産出に必要な研究能力と福祉実践者としての研究的態度を探究できるよう教授する。</p> <p>① 西澤 哲 虐待臨床に関する課題や虐待傾向を示す親を対象とし、統計手法を用いた量的研究や事例分析などについての研究指導を行う。</p> <p>② 相澤仁 施設養育、社会的養護、非行、ソーシャルワークの問題等を主とする質的研究方法による研究課題について指導を行う。</p> <p>③ 奥山真紀子 小児精神保健、子どもの心の課題、トラウマ理解と援助等の観点から研究指導を行う。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">研究科目</p>	<p style="text-align: center;">人間福祉学特別研究Ⅲ</p>	<p>4 柳田正明 障害者福祉の中でも特に知的障害者を研究対象としたソーシャルワークの事例を通して、法制度および実践での諸問題について研究指導を行う。</p> <p>5 中島朱美 地域包括ケアシステムの推進をめぐる課題ならびに高齢者の支援体制の在り方についての研究指導を行う。</p> <p>6 高野牧子 実践研究、LABAN理論を基にしたVTR分析の手法を用いて、幼児の身体表現や幼児と保護者を対象とした身体表現遊びの支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>④ 山田勝美 子ども家庭福祉、虐待対応について、被虐待児や保護者への支援に関する事例検討を基にした質的研究や家庭的養育のあり方などについて、養護施設等へのヒアリング調査などの方法を基にした検討を進めていく実践的な諸問題について研究指導を行う。</p> <p>8 池田充裕 多文化共生社会における幼児教育・保育の政策・制度・実践に関して研究を深め、修士論文の作成と最終発表会に向けての研究指導を行う。</p> <p>9 大塚ゆかり 精神保健福祉に関する課題について、特にピアカウンセリングの有効性等の研究指導を行う。</p> <p>10 青柳暁子 高齢看護及び地域看護の領域の中で、特に地域連携やアクティビティケアに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>11 里見達也 特別支援教育、発達障害児の支援、障害児保育を研究課題として指導を行う。</p> <p>13 鳥居美佳子 人間福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱにおける食に関する課題の根拠や介入成果を効果的に共有するプレゼン能力を養うとともに、子ども家庭福祉・地域福祉・幼児教育の実践において効果的に活用するための情報処理能力について、時間栄養学的観点から指導する。</p> <p>14 古屋祥子 幼児の造形活動や触察鑑賞に関わる研究課題について指導を行う。</p> <p>15 高木寛之 社会学的見地より地域福祉、ボランティア、社会福祉政策学に関わる研究の指導を行う。</p> <p>16 石垣千秋 主に社会保障制度、医療制度（諸外国との比較を含む）について、制度研究、制度改革に関する研究課題について、主に質的研究方法によるものについて研究の指導を行う。</p> <p>17 太田研 知的・発達障害児や診断閾下児の発達過程や心理アセスメントに基づく支援、コンサルテーションに関する研究成果について、アメリカ心理学会発行の論文作成マニュアルに則り、研究発表について指導を行う。</p>	
---	---	--	--

研究科目	人間福祉学特別研究Ⅲ	<p>18 橋爪大輝 人間福祉学の背景をなす倫理学や社会思想等に関する課題にとくにフォーカスして、文献のサーヴェイや解釈・読解、文章執筆の研究指導を引き続き行いつつ、口頭発表の構成や資料作成法等をはじめとする学術的な発表技法を具体的に指導する。</p>	
研究科目	人間福祉学課題研究	<p>人間福祉学課題研究では、実践現場での問題事例を取り上げて、研究倫理に沿って調査・分析を行い、特定課題研究レポートを作成できるように教授する。また、修士論文等最終発表会に向けて、自身の研究の概要や調査結果を的確にまとめ、自身の研究の意義や具体的・効果的な改善案を示すことができるように指導を行う。</p> <p>① 西澤 哲 虐待臨床に関する課題や虐待傾向を示す親を対象とし、統計手法を用いた量的研究や事例分析などについての研究指導を行う。</p> <p>② 相澤仁 施設養育、社会的養護、非行、ソーシャルワークの問題等を主とする質的研究方法による研究課題について指導を行う。</p> <p>③ 奥山真紀子 小児精神保健、子どもの心の課題、トラウマ理解と援助等の観点から研究指導を行う。</p> <p>4 柳田正明 障害者福祉の中でも特に知的障害者を研究対象としたソーシャルワークの事例を通して、法制度および実践での諸問題について研究指導を行う。</p> <p>5 中島朱美 地域包括ケアシステムの推進をめぐる課題ならびに高齢者の支援体制の在り方についての研究指導を行う。</p> <p>6 高野牧子 実践研究、LABAN理論を基にしたVTR分析の手法を用いて、幼児の身体表現や幼児と保護者を対象とした身体表現遊びの支援に関する研究について指導を行う。</p> <p>④ 山田勝美 子ども家庭福祉、虐待対応について、被虐待児や保護者への支援に関する事例検討を基にした質的研究や家庭的養育のあり方などについて、養護施設等へのヒアリング調査などの方法を基にした検討を進めていく実践的な諸問題について研究指導を行う。</p> <p>8 池田充裕 比較教育、教育政策、教育制度、学校教育などに関する課題について研究指導を行う。</p> <p>9 大塚ゆかり 精神保健福祉に関する課題について、特にピアカウンセリングの有効性等の研究指導を行う。</p> <p>10 青柳暁子 高齢看護及び地域看護の領域の中で、特に地域連携やアクティビティケアに関する課題の研究指導を行う。</p>	

<p>研究科目</p>	<p>人間福祉学課題研究</p>	<p>11 里見達也 特別支援教育、発達障害児の支援、障害児保育を研究課題として指導を行う。</p> <p>13 鳥居美佳子 食に関する課題の根拠や介入成果を効果的に共有するプレゼン能力を養うとともに、子ども家庭福祉・地域福祉・幼児教育の実践において効果的に活用するための情報処理能力について、時間栄養学的観点から指導する。</p> <p>14 古屋祥子 幼児の造形活動や触察鑑賞に関わる研究課題について指導を行う。</p> <p>15 高木寛之 社会的見地より地域福祉、ボランティア、社会福祉政策学に関わる研究の指導を行う。</p> <p>16 石垣千秋 主に社会保障制度、医療制度（諸外国との比較を含む）について、制度研究、制度改革に関する研究課題について、主に質的研究方法によるものについて研究の指導を行う。</p> <p>17 太田研 知的・発達障害児や診断閾下児の発達過程や心理アセスメントに基づく支援、コンサルテーションに関する研究成果について、アメリカ心理学会発行の論文作成マニュアルに則り、研究発表について指導を行う。</p> <p>18 橋爪大輝 哲学・倫理学の視点から、福祉倫理、福祉思想史等の研究指導を行う。</p>	
-------------	------------------	---	--

公立大学法人山梨県立大学 設置認可等に係る組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山梨県立大学				山梨県立大学				
国際政策学部		3年次		国際政策学部		3年次		
総合政策学科	40	5	170	総合政策学科	40	5	170	
国際コミュニケーション学科	40	5	170	国際コミュニケーション学科	40	5	170	
人間福祉学部		3年次		人間福祉学部		3年次		
福祉コミュニティ学科	40	5	170	福祉コミュニティ学科	40	5	170	
人間形成学科	40	5	170	人間形成学科	40	5	170	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
計	260	20	1,080	計	260	20	1,080	
山梨県立大学大学院				山梨県立大学大学院				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻 (M)	10	—	20	看護学専攻 (M)	10	—	20	
看護学専攻 (D)	3	—	9	看護学専攻 (D)	3	—	9	
				人間福祉学研究科				研究科の設置 (認可申請)
				人間福祉学専攻 (M)	5	—	10	
計	13	—	29	計	18	—	39	